

## 地域開発と21世紀

### 〔地方の時代〕

四全総は東京の一極集中から地方への多極分散を目指している。地域の開発も政府主導から民間活用へと重点がおかれるようになった。最近、「ふるさと創生」の名のもとに1億円のプレゼントが全国の市町村に配られたことにも象徴されるように、世は、正に、地方の時代へと移りつつある。

### 〔地域の国際性〕

国際的な博覧会が、福岡「よかとびあ」、大阪「花の万博」、横浜「みなとみらい21世紀」の各地域で行われ、また行われようとしている。4年後に開港される関西国際空港は、わが国初の24時間空港であり、関西地域の復興と国際化の核に位置づけられている。空港近辺には24時間都市が作られつつある。米ソのデタントが進み、沖縄の米軍基地が不要になれば、珊瑚礁を傷つける海上空港ではなく、米軍基地を整備し国際空港にする。さらに、沖縄県民の総意を得て、沖縄全体を第二の香港として、21世紀の世界経済を担う国際自由都市にすることも考えられる。

### 〔広域開発〕

地域開発は府県単位ではなく、地域圏単位で協力して、本格的な規模で行われるべきである。例えば、図書館なら、京阪奈に計画されている第二国公図書館が良い例である。同じ規模の図書館を、北海道、東北、北陸、中部、中国、四国、九州に

もつくる。美術館についても、仏のルーブル美術館位の規模のものが関東と関西にあってしかるべきである。四国に国際空港をつくり、東洋最大の四国ディズニーワールドをつくるのは如何なものだろうか。東京ディズニーランドが日本人の手でつくられなかったことが、わが国における地域開発の後進性を象徴しているように思える。

### 〔沿岸都市の高度化〕

東京湾にしろ、大阪湾にしろ、投下資本の回収のためか、埋立地にアパートを混在させる。このような高価な土地と無限に広がる恵まれた空間には、24時間都市またはレジャーセンターをつくるべきではないだろうか。住宅地にすると、閑静さが要求され、周囲の開発を制限する。単に海に突き出した島というだけで、海を利用した乗り物、レストラン、観光施設もなく、コンテナ埠頭が主役であると言った殺風景なものである。コンテナ船の航路の故に海上レジャー施設の建設も制約を受ける。すべてが中途半端な代物と言うべきであろうか。

### 〔情報量の重視〕

国技館やドーム球場を東京に作る。なぜなら、多くの人が入り、儲かるから。その結果、益々多くの人々が東京周辺に集まる。人が集まるところには、情報も集まる。情報が集まると、その情報を求めて、更に人が集まる。政治、経済、金融の情報が東京に集中する。国際化と共に、世界からもその

神戸大学経済経営研究所

教授 定 道 宏

情報を求めて、人が集まる。政治と経済の中心が一体である限り、この集中化傾向は止まらない。情報は場所を取らないが、人は場所を占める。そして、建物は高層化され、一層混雑となる。地域開発は、とかく産業振興またはレジャー開発に主眼が置かれがちであるが、究極的には、そこに集まる情報量こそが重要なファクターとなる。ファッションも博覧会も美術館もグルメレストランも場所の大きさに比べ、その情報量は多大である。それに対して、スポーツや娯楽のレジャー施設は、場所を大きくしないと情報量は大きくならない。つまり、場所の大きさに比例して情報量は多くなる。例えば、ルーブル美術館は1日で全部見るのではなく、3日ぐらいかけてゆっくりと見たいだろうし、ディズニーワールドのようなスケールの大きなレジャーランドでは1週間ぐらいはゆっくり楽しみたいと思うであろう。情報量は目に見えないが、そこで何日ぐらい過ごしたいかで情報量の大きさを測れるのではないだろうか。地域開発は、自然的条件を考慮して、最適な情報量を確保できる規模の大きさでなければ、かえって混雑と公害を誘致するようなものとなる。

### 〔適正な開発規模〕

地域開発は何のためにするのか、地域住民のためなのか、地域活性のためなのか。自然のままに保存することも地域開発である。珊瑚礁やぶなの原生林、城下町の町並みを保存することも地域開発である。辺境の港町をリハビリして、観光地に

するのも地域開発である。地域活性のための地域開発は、適正な規模で行われないと、地域破壊につながることになる。

### 〔バランスのとれた国土開発〕

日本は、国も広く、人口も多く、金持ちでもある大国である。イギリス、西ドイツに比べて、国土面積で約1.5倍、人口では2倍もある大国なのである。であるから、たとえば、日本を東西(50サイクル圏と60サイクル圏)に2分して、効果的な地域開発を行うならば、2つのイギリス、いや、2つの西ドイツを作ることも夢ではないのである。金持ち日本であるから、そのための開発資金にも困らない。21世紀に向けての地域開発は、2つの西ドイツを作る気概をもって行えば、地域開発の前途には洋々たる未来がある。



# 茨城のレジャー・観光

最近、海外旅行から、避暑、キャンプ、ゴルフ、マリンスポーツに至るまで色々な方法でエンジョイされているのではないのでしょうか。

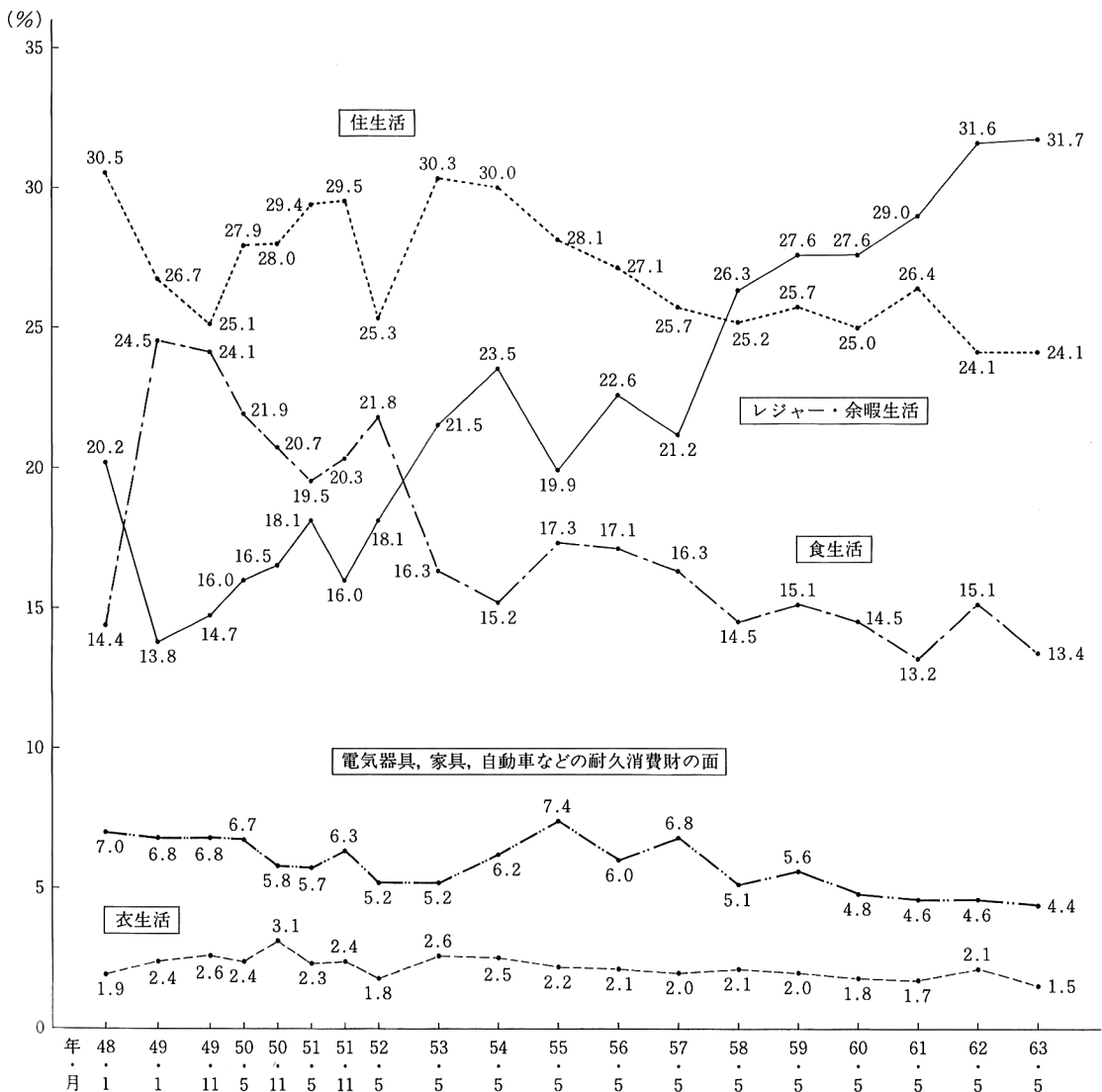
を集めてみました。

## 1. 国民は今、レジャー・余暇生活を指向

そこで、今回はレジャー・観光についての統計

最近、エンジョイライフを求めてレジャーに

図一 今後の生活の力点の推移



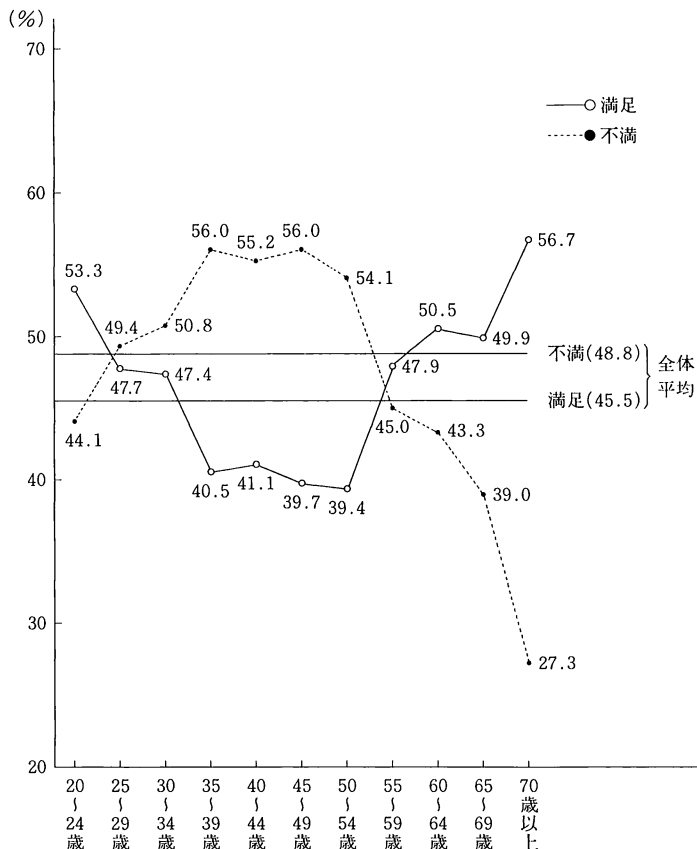
資料 「国民生活に関する世論調査(63年5月)」

## 統計インフォメーションNo.20から

対する意識も高まっているようです。図-1, 2, 3は生活の力点の推移, レジャーと仕事の関係を表したもので, 各年齢層の特徴がわかるかと思えます。

- 今後の生活の力点は, 58年以降「レジャー・余暇生活」をトップに挙げており, 国民の関心度が非常に高い。(図-1)
- 現在のレジャー・余暇生活の満足度は, 45.5%と高くなっているが, 不満とする者(48.8%)

図-2 現在のレジャー・余暇生活の満足度



資料 「国民生活に関する世論調査(63年5月)」

と比較するとやや少なくなっている。(図-2)

- 働き盛りの30歳代から50歳代までの年齢層では, 半数以上の者が「レジャー・余暇生活」について不満の仕事重視型。一方, 中間層を除く老若者はレジャー満足型。(図-2, 3)

## 2. 茨城県民の余暇活動(スポーツ)の状況

表-1はどのくらいの人が1年間にスポーツを行ったかを示す行動者率で, 男女の種類別の状況を全国と比較したものです。

男女計では, 73.6%(男子81.6%—31番目, 女子65.9%—28番目)で, 全都道府県中27番目で中位にある。

スポーツの種類別行動者率では, ↑1~6位の高いグループ

男子—ハンドボール

女子—なわとび

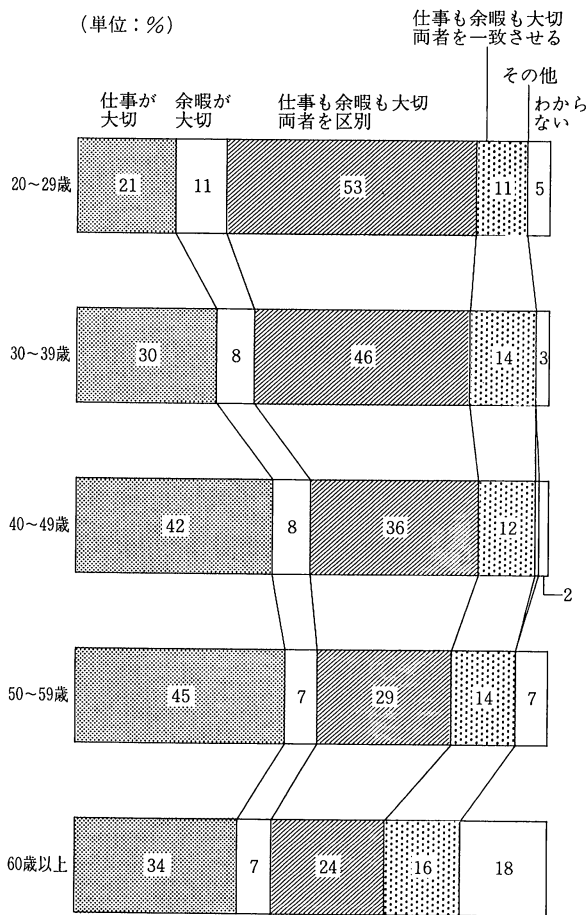
↓32~41位のやや低いグループ

男子—卓球, バレーボール, 水泳, ジョギング, 運動としての散歩, 軽い体操

女子—ソフトボール, 登山・ハイキング, 運動としての散歩, エアロビクス, 軽い体操

男女の行動者率では, 男子型スポーツがある関係等もあり, 大半の種類で男子が女子を上回っている。

図一 3 仕事と余暇の関係



資料 「余暇と旅行に関する世論調査(61年1月)」

### 3. 茨城における観光レクリエーション

表一 2, 3, 図一 4 は、茨城における観光客の入込状況と観光レクリエーション施設数等を他県と比較し、順位を表したものです。

- ・ 茨城は、有名な温泉地とか観光施設数が少ないと言われているが、最近5年間の入込観光客

表一 1 スポーツの種類別行動者率 (単位：%)

	男女計		茨城県	
	全国	茨城県	男	女
総 数	76.3	73.6	81.6	65.9
野 球	16.9	17.8	32.7	3.2
ソフトボール	16.6	17.2	29.3	5.5
卓 球	10.7	10.4	12.0	8.8
テ ニ ス	11.8	11.2	11.2	11.2
バレーボール	12.4	13.0	11.4	14.5
バスケットボール	4.9	4.6	5.2	4.0
ゴ ル フ	11.8	12.8	22.9	2.9
バドミントン	11.4	11.8	10.4	13.2
ボウリング	24.0	22.3	27.6	17.2
ゲートボール	3.0	3.4	3.4	3.3
水 泳	26.1	20.9	25.7	16.3
ス キ ー	9.9	7.5	9.7	5.3
アイススケート	5.1	3.8	4.1	3.4
登山, ハイキング	14.2	11.2	12.7	9.7
サイクリング	6.6	6.1	6.8	5.4
ジョギング	12.0	10.9	13.7	8.2
運動としての散歩	19.2	16.7	16.7	16.8
エアロビクス	4.2	3.1	0.6	5.5
軽 い 体 操	31.6	28.6	28.0	29.3
ハンドボール	0.9	1.1	1.5	0.7
サーフィン	1.1	0.9	1.4	0.5
な わ と び	9.3	11.0	8.3	13.7

資料 「昭和61年社会生活基本調査結果報告」



## ◇統計の窓

- 県内観光地に来る 4人に3人はマイカー・日帰り型、4人に1人は海水浴目的、県外客は茨城県民の4.4倍に相当。(図-4)

表-3 観光レクリエーション施設数

観光レクリエーション施設名	箇所	関東順位
サイクリングコース	10	4
ハイキングコース	29	6
オリエンテーリングコース	7	6
自然歩道・自然研究路	11	4
キャンプ場	36	6
ゴルフ場(全国6位)	60	3
海水浴場	19	4
マリナー・ヨットハーバー(全国11位)	10	2
観光農林業	24	6
観光漁業	36	5
レジャーランド	7	6
公園	54	4
温泉地	39	3
みやげ店	148	7

資料 「全国観光情報ファイル(63年版)」,  
「昭和60年商業統計表」,「環境庁調」

### 4. 国民のレジャー・観光への参加状況

表-4は全国民のどの位の人がレジャー・観光に参加したかを調べたものです。これをみると、対前年比で伸びているのはキャンプ・登山、ゴルフ、サーフィン・ヨット等です。これらは茨城にとって、八溝山系を抱えた恵まれた自然と図-5にあるようなマリナー等の計画から、今後期待できるのではないのでしょうか。

表-4 レジャー・観光参加人口 (単位:万人)

	61年	62年	62年/ 61年
サイクリング	1,430	1,140	79.7%
ハイキング	3,700	3,150	85.1
フィールドアスレチック	770	740	96.1
ジョギング・マラソン	2,690	2,310	85.9
キャンプ・登山	1,130	1,800	159.3
ゴルフ(グリーン)	1,010	1,130	111.9
海水浴	3,700	3,370	91.1
サーフィン・ヨット	280	320	114.3
野球	2,220	2,230	100.5
釣り	1,700	1,610	94.7
遊園地	3,630	3,610	99.4
動物園・植物園等	4,030	3,660	90.8
ドライブ	5,690	5,440	95.6
国内観光旅行	5,270	5,390	102.3
海外旅行	430	640	148.8

資料 「レジャー白書」

(参考)

ドライブと国内観光旅行は、全国民の2人に1人、遊園地と動物園・植物園は、3人に1人、ハイキングと海水浴は、4人に1人が参加したことになる。海外旅行者数は、対前年比49%増で最高を記録。

図一五 魅力ある茨城の計画  
 鹿島灘スポーツリゾート基地  
 首都圏で最大級の  
 国営常陸海浜公園(350ha)ほか



※ この図は、新県民福祉基本計画に示された施策等をもとに描いたものです。

(統計課・統計指導グループ)